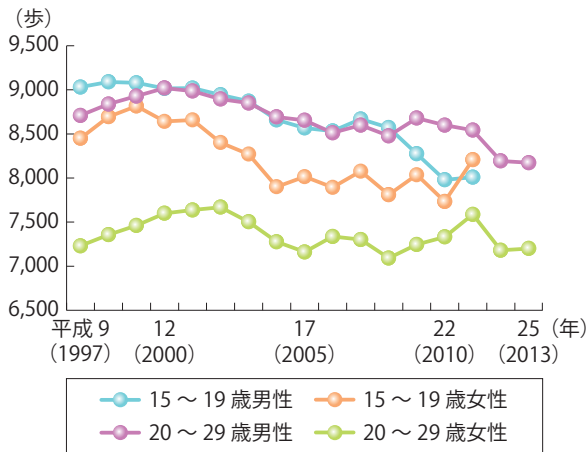
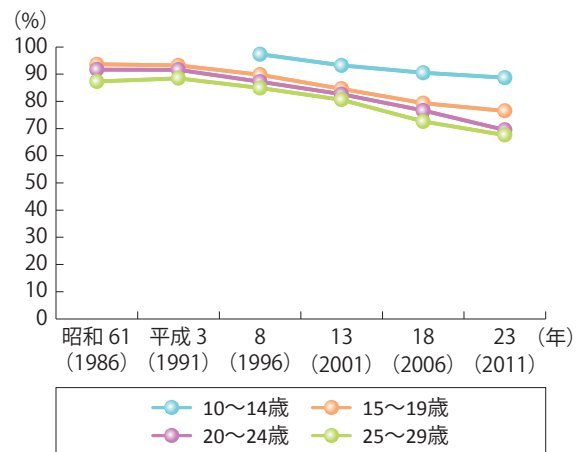


第1-2-7図 15歳以上の歩数



(出典) 厚生労働省「国民健康・栄養調査」
 (注) 1. 傾向を把握するため、後方3期移動平均の数値をグラフ化している。
 2. 平成24年以降は20歳以上のみを測定。

第1-2-8図 過去1年間にスポーツを行った人

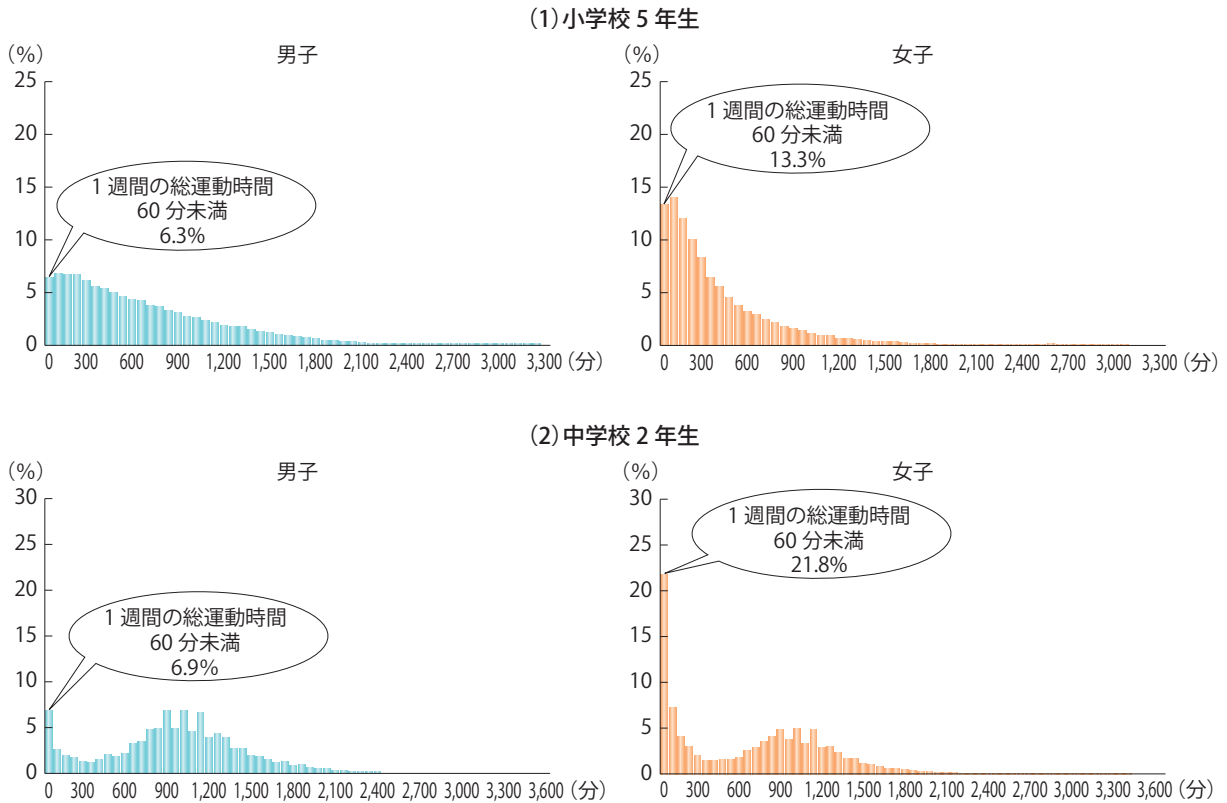


(出典) 総務省「社会生活基本調査」

小学校5年生・中学校2年生の男子の1割弱，女子の1～2割がほとんど運動をしていない。(第1-2-9図)

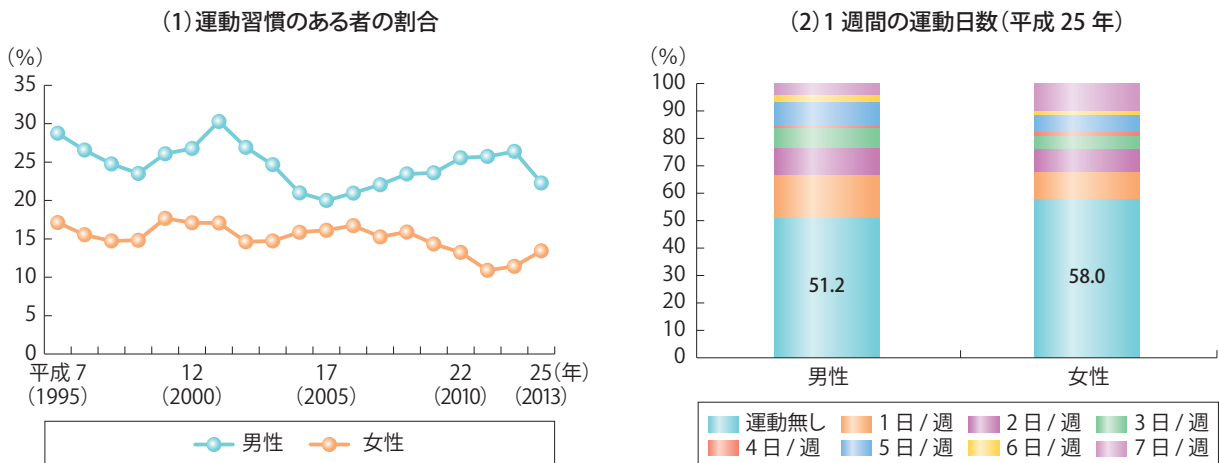
20代では，男性は運動習慣のある者の割合が，平成18(2006)年度以降，上昇傾向にあったが，平成25(2013)年度は低下した。女性はここ数年上昇している。1週間の運動日数をみると，男性の約5割，女性の約6割は運動習慣がない。(第1-2-10図)

第1-2-9図 1週間の総運動時間(小学校5年生，中学校2年生)(平成26年度)



(出典) 文部科学省「全国体力・運動能力，運動習慣等調査」

第1-2-10図 20代の運動状況



(出典) 厚生労働省「国民健康・栄養調査」
 (注) 1. 運動習慣のある者とは、1回30分以上の運動を週2日以上実施し、1年以上継続している者。
 2. 運動習慣のある者の割合のグラフは、傾向を把握するため、後方3期移動平均の数値をグラフ化した。

第2節 疾病

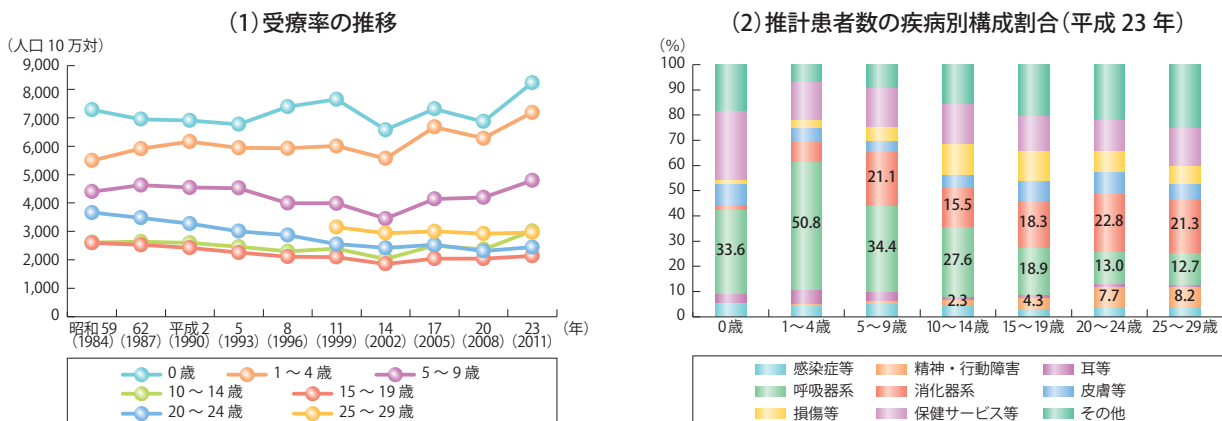
1 受療率と推計患者数

30歳未満の受療率は低年齢層ほど高い。

受療率²は、0歳が最も高く、1～4歳、5～9歳と続いている。0～14歳の受療率は、この10年間で上昇傾向にある。(第1-2-11図(1))

推計患者数を疾病別にみると、0～14歳では呼吸器系の疾患が最も多く、とりわけ1～4歳では全体の半数を占めている。15～19歳では呼吸器系の疾患と消化器系の疾患がほぼ同数である。20代では、消化器系の疾患が最も多く、全体の約2割を占める。年齢層が上がるにつれ、精神・行動障害の占める割合が増える。(第1-2-11図(2))

第1-2-11図 受療率・推計患者数 (疾病別構成割合)



(出典) 厚生労働省「患者調査」
 (注) 1. 受療率とは、人口10万人当たりの推計患者数。
 2. 平成23年の数値は、宮城県石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値。したがって、平成20年と平成23年の数値は単純には比較できないことに留意が必要。
 3. (2)の凡例の「患者調査」上の分類名は以下のとおり。
 感染症等：「感染症及び寄生虫症」、精神・行動障害：「精神及び行動の障害」、耳等：「耳及び乳様突起の疾患」、呼吸器系：「呼吸器系の疾患」、消化器系：「消化器系の疾患」、皮膚等：「皮膚及び皮下組織の疾患」、損傷等：「損傷、中毒及びその他の外因の影響」、保健サービス等：「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」

2 人口10万人当たりの推計患者数。